

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

【図書紹介】 『象徴形式の形而上学 エルン
スト・カッシーラー遺稿集第一巻』 エル
ンスト・カッシーラー著 笠原賢介、森淑仁
訳 法政大学出版局 二〇一〇年

庄子, 綾 / Shoji, Aya

(出版者 / Publisher)

法政哲学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政哲学 / 法政哲学

(巻 / Volume)

7

(開始ページ / Start Page)

81

(終了ページ / End Page)

81

(発行年 / Year)

2011-06

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007938>

【図書紹介】

『象徴形式の形而上学 エルンスト・カッシーラー遺稿集

第一巻』

エルンスト・カッシーラー著 笠原賢介、森淑仁訳 法政大学出版局

二〇一〇年

庄子 綾

本書は、エルンスト・カッシーラーの遺稿集・第一巻の全訳である。カッシーラーは、本国ドイツでは、長年忘れ去られていた哲学者であった。しかし、彼の亡命先となったアメリカで研究が続けられた結果、一九九〇年代からは、祖国で著作集と遺稿集の刊行が開始され、昨今は欧州での再評価も進みつつある。この間の経緯については、訳者解説で的確に概観されている。

カッシーラーの名著『象徴形式の哲学』は、全三巻で完結しているが、続編が構想されていた。本書には、その続編のために、一九二〇年代および四〇年代初頭に書かれた、四つの草稿が収録されている。カッシーラーは、当初、『象徴形式の哲学』第三巻の最終章として「現代哲学批判」を用意していたが、分量の多さからその収録を断念した。ハイデガーやベルクソンらに対する具体的な批判を含むこの最終章は、独立した続編としての刊行を予告されたものの、ついに発表されなかった。続編の草稿はその後も書き継が

れ、亡命生活の中でも、主著の第四巻として再考されたが、やはり未完に終わったのである。本書に収められている四つの草稿は、内容も執筆時期も異なっているが、この一連の流れに関係する極めて豊富な内容に渡るもので、完成しなかった第四巻の姿を暗示している。本書を読むことによつて、主著『象徴形式の哲学』ならびにカッシーラー哲学の広さと深さ、多様性を確かめていただきたい。

カッシーラーの哲学は、文化・言語・神話・科学・芸術・歴史など、あらゆる人間の活動を射程に収めるものであり、その全体を捉えるのは困難である。欧米の研究者も指摘しているように、包括的な研究はまだ始まったばかりである。遺稿集も、全二十巻が刊行されるまでに、あと十数年は要すると思われる。そのような状況の中で、カッシーラー哲学のエッセンスが凝縮されている本書を日本語で読むことができるようになった意義は、非常に大きい。本書の刊行を機に、日本国内のカッシーラー研究が活発となることを願いたい。

原著 Ernst Cassirer, *Nachgelassene Manuskripte und Texte*, hrsg. von John Michael Krois und Oswald Schwemmer, Bd. 1: *Zur Metaphysik der symbolischen Formen*, hrsg. von John Michael Krois unter Mitwirkung von Anne Appelbaum, Rainer A. Bast, Klaus Christian Köhnke und Oswald Schwemmer (Hamburg 1995)